

平成25年3月（第1回）議会一般質問事項

1 高齢化対策について

- (1) 要介護認定者の現状と将来予測
- (2) 特別養護老人ホームの整備
- (3) 今後の対策

2 流域下水道事業について

- (1) 整備状況
- (2) 今後の方針
- (3) 整備終了年度

3 学校教育について

- (1) 合併後の成果と実績
- (2) 今後の方針

伊勢崎クラブを代表し、通告に基づき順次一般質問をいたします。

まず初めに、さきの市長選挙におき、無投票当選を果たした五十嵐市長に心から祝意を表するとともに、健康に留意し、20万市民の先頭に立ち、この伊勢崎市を力強く引っ張っていただきたいと思います。

五十嵐市長、まことにおめでとうございます。

さて、質問の1点目、高齢化対策についてお伺いいたします。

我が国は、世界の中で例を見ない速さで少子高齢化が進んでおり、国民生活の隅々にまで影響を与え、地域社会のあり方を含め、我が国の経済、社会全体が大きく変わってきております。こうした、いまだかつて経験したことがない変革期にあって、長寿社会にふさわしい高齢者保健福祉をいかに構築するか、こ

のことは本市においても最大の課題の一つであります。

年をとっても、いつまでも元気で自立した生活ができる高齢者でありたい、そう願うのは誰も同じです。

しかし、現実はそううまくいきません。

昭和35年、国際連合で高齢化率を65歳以上の人口比で表示することを決定して以来、65歳以上が高齢者として扱われています。

近年、先進諸国の平均寿命が80歳前後まで延びてきていることから、低過ぎるという見解も出てきており、介護や医療サービスへの対応を図るため、高齢者層を2つに分け、65歳から74歳までを前期高齢者、75歳以上を後期高齢者と分けているのは誰でも承知のことです。

ところで、皆さん、私も今月10日をもって65歳、高齢者の仲間入りです。これからは大きい声を小さい声に変え、私は高齢者ですと言わなくてはなりません。

いや、高齢者になっても、なお一層大きい声で胸を張っていきたい、そのように思っております。

高齢者の最大の不安要因である介護を社会全体で支える仕組みとして、介護保険制度が平成12年、ちょうど2000年4月1日に始まりました。

以来、制度とともに各種施設の整備が進み、少し安堵しているところではありますが、我々団塊の世代があと10年すれば後期高齢者であります。

そこで、(1) 要介護認定者の現状と将来予測、(2) 特別養護老人ホームの整備、(3) 今後の対策についてお伺いいたします。

2点目、流域下水道事業についてお伺いいたします。

県内6番目の流域下水道として、平成13年度から着手してきましたこの事業は合併という大試練をくぐり、伊勢崎市の東南部地域並びに赤堀、東、境、尾島地域等の生活環境の改善や河川の水質保全を目的に事業整備が進んでいるところと拝察いたします。

また、平成20年9月27日からは、平塚水質浄化センターが稼働を始め、下水処理が本格的に動き出しました。

当初の全体計画3,282ヘクタールのうち、認可計画460.7ヘクタールが毎年少しずつ整備され、当初終了年度の平成23年度も経過し、いつになったら新しいエリアが確定になるのか心待ちにしております。

先日も近くに住む人から、きょうも後ろに傍聴に来ていますが、英ちゃん、家のトイレも古くなり、そろそろ新しいのに変えようと思うけど、下水道はまだかいと聞かれました。

いやー、その、あのと何と歯切れの悪い答弁しかできず、かといって、生きて

いるうちにできるかわかりませんとも言えず、 気まずい思いをしました。
こうして、みんなが下水道が入るのを楽しみにしているのに、歯がゆくて 仕方がありません。

そこで（１）整備状況、（２）今後の方針、（３）整備終了年度についてお伺いいたします。

3点目、学校教育についてお伺いいたします。 私が山口教育長と言葉を交わしたのは、合併間もない平成17年8月、あのあずま夏まつりの会場でした。

そのとき、たわいもないことで自前の大きな声を荒らげたのでした。

そのことを思うと、今でも穴があったら入りたい気分であります。

合併前はあずま中学校で、毎年20名からの生徒の派遣 を、アメリカ、イリノイ州ギャビン学校区と国際交流を行ってきました。

それが合併によりなくなる。

この一つをとっても納得できないところ、何でもかんでも伊勢崎方式になっていく。

当時の私は我慢の限界でした。

それを、山口教育長に矛先を向けてしまったのでした。

今は反省しております。

平成18年には、合併後、初めての市議選があり、晴れて34名の議員が誕生しました。

以来、今日まで、 親しく言葉を交わせるとは思いませんでした。

察するに、教育長就任の8年間は、伊勢崎市の教育をいかに確立するか、苦悩に満ちた8年だったのかもしれませんが。

しかし、この8年で伊勢崎市の教育も大きく変貌したのも事実であります。

人は 学ぶことにより成長し、生きていくためには学ぶことが何よりも重要です。

少年よ大志を抱け、若い 児童・生徒が希望を持てる学校生活が送れるよう、環境を整えるのは我々の責任であります。

そこで、（１）合併後の成果と実績、（２）今後の方針についてお伺いいたします。

以上で質問は終わりますが、答弁によっては再質問を留保いたします。